

「九州大学学術研究都市」セミナーin東京2018 開催

平成30年11月28日（水）、ハイアットリージェンシー東京において、OPACK主催のセミナーを開催し、幅広い業種の企業から142名の参加をいただきました。

本セミナーは、平成30年9月に移転が完了した農学系、文系に着目し、「新たな時代の九州大学学術研究都市」をテーマとして開催。産学官と地域が一体となった戦略的研究拠点を紹介することにより、世界的な「知の拠点」を目指す九州大学学術研究都市をPRするとともに、産業化に向けた新たな企業との連携及び立地を促進することを目的として実施しました。



写真：セミナーの様子

セミナーではまず、講演に先立ち、OPACKから、九大学研都市での最先端研究プロジェクトや研究・試験施設の集積状況等を紹介しました。

続く講演では、九州大学の5名の研究者の方より、最新の研究を発表していただきました。農学研究院からは、立花宏文主幹教授による『食品因子センシング科学とその実用化 ―機能性デザインフードの開拓―』について、近藤哲男教授による、『水だけでナノ微細化させる水中カウンターコリジョン（ACC）法により製造されるセルロースナノファイバーの産学連携実用化展開』、岡安崇史准教授による、『Society5.0時代の農業を考える』、日下部宜宏教授による『九州大学カイコバイオリソースを活用したタンパク質昆虫工場』の4件の御講演をいただきました。また、法学研究院からは、寺本振透教授より『法律家による“お手伝い”の流儀』 ―法律実務家と法律研究者の使い分け―と題し、ご講演いただきました。

セミナー後の交流会では、講演者・参加者の皆さんにより熱心な意見交換が行われ、大盛況のうちに終了しました。



写真：講演の様子（九州大学 大学院 農学研究院 主幹教授 立花 宏文 氏）



写真：講演の様子（九州大学 大学院 農学研究院 教授 近藤 哲男 氏）



写真：講演の様子（九州大学 大学院 農学研究院 准教授 岡安 崇史 氏）



写真：講演の様子（九州大学 大学院 農学研究院 教授 日下部 宜宏 氏）



写真：講演の様子（九州大学 大学院 法学研究院 教授 寺本 振透 氏）



写真：交流会の様子

新たな知の創出を目指す伊都地区イーストゾーンが完成！

伊都地区イーストゾーンは、九州大学の移転事業最終ステージで、平成30年9月に完成を迎えました。

東西に延びる伊都キャンパスのなかで文字通り東側に位置し、中央図書館と5つのブロックで構成される人文社会科学系総合研究棟イースト1号館・2号館、そして総合臨床心理センター、構造実験棟をはじめとする各種実験棟から構成されております。

イースト1号館・2号館は、先に六本松キャンパスから伊都キャンパスに移転した比較社会文化研究院、地球社会統合科学府、言語文化研究院と、箱崎キャンパスから移転した人文科学研究院、人間環境学研究院、教育学部、法学研究院、経済学研究院、統合新領域学府など6研究院、6学

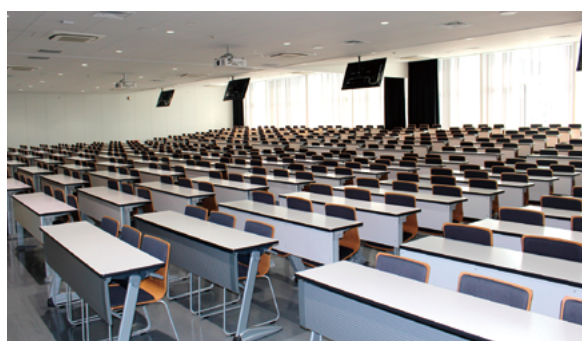
府、工学部建築学科を含む5学部が入るイーストゾーンの主要な施設です。建物の低層階は、インナーモールという連続した吹き抜けで構成され、研究の発表や展示をして学際的な活動を育むプレゼンテーションスペース、リフレッシュスペースを設けています。



博多織をイメージした色彩を施したイーストゾーン全景



1号館9階の石ヶ原古墳展望展示室は、開放感に溢れ、伊都キャンパス全体が一望できます。



500人が収容できる大講義室。最新の設備が整っています。

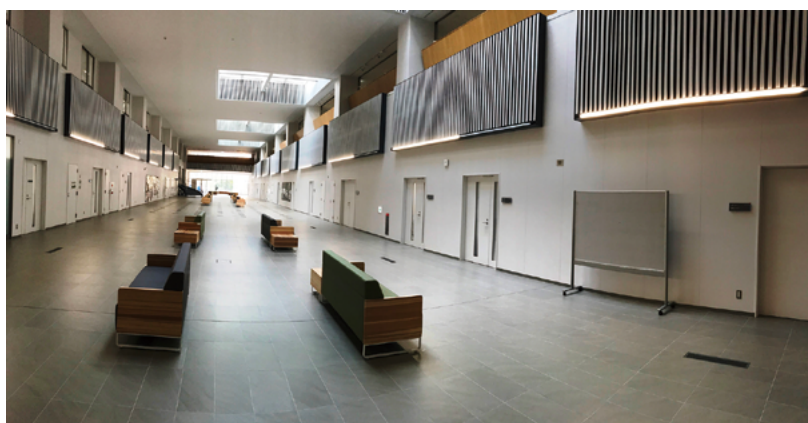


大講義室の隣接する学生サロンは、学生の多様な活動に対応します。

イーストゾーンに移転することとなった部局のうち、人文科学研究院、人間環境学研究院、法学研究院、経済学研究院、教育学部は、教育・研究面で緊密な連携関係を築いてきました。

平成30年4月から始まった文系4学部副専攻プログラムは、その1つです。

戦後の日本や世界の政治や経済を支えてきた枠組みが次々と崩れ不安定化し、文化的・宗教的混乱と知的動揺が世界全体に広がりつつあります。こうした不透明な現代社会において、私たちは、何を学び、それを個人や社会の未来にどう活かしていけばよいのでしょうか。



イースト1号館内のインナーモール、心地よい光が注ぐ快適な空間となっています。

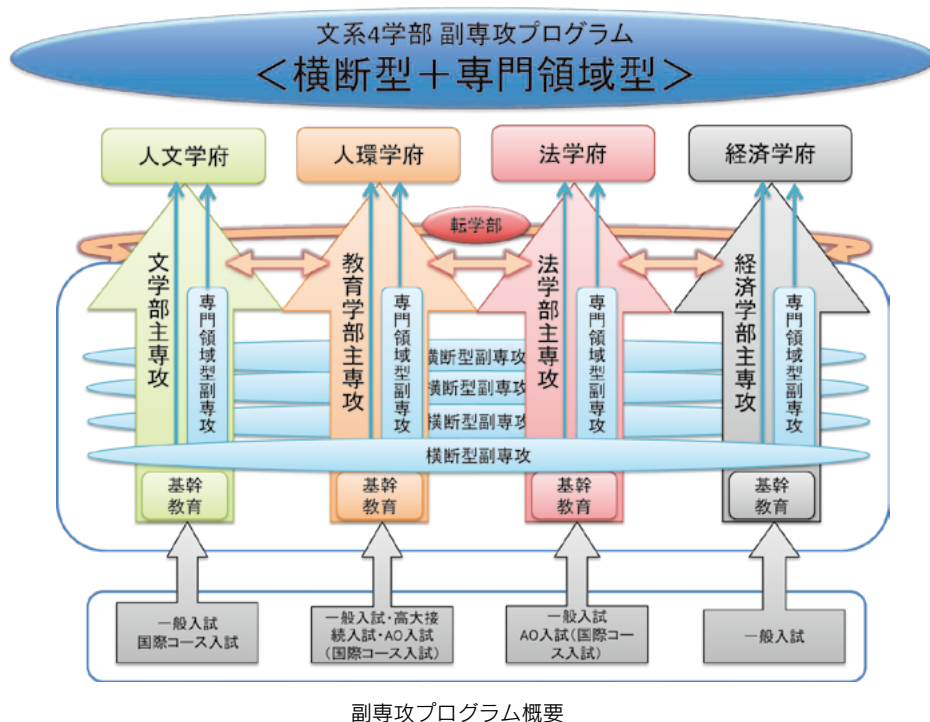
こうした根源的な問いかけに対して、人文学・社会科学が果たすべき役割はますます大きくなっています。とはいえ現代社会の新しい潮流は、これまでと同じ学問的な枠組みや学び方では正しく把握できないかもしれません。そこで九州大学の文系4学部（文学部・教育学部・法学部・経済学部）は、それぞれの学問分野に蓄積された知的資産を相互に開放し、体系的に提供する「文系4学部副専攻プログラム」をスタートさせました。

副専攻プログラムにより、九州大学の文系学部の学生は、自学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えた人文・社会科学分野の知的広がりを獲得することができます。プログラムは、各学部の専門教育が始まる2年次からスタートします。「横断型」と「専門領域型」に分かれ、それぞれに複数の魅力的なプログラムが立ち上がっています。

さらに、平成30年10月には、人社系協働研究・教育コモンズを設置しました。人社系協働研究・教育コモンズとは、文系4学部共同副専攻プログラムの開始を契機に、教育活動における連携態勢の強化を図っている担当4部局（人文科学研究院、人間環境学研究院、法学研究院、経済学研究院）が、さらに研究活動における連携を深めて実践することに加え、こうした取組を十全に企画運営していくために人文社会科学系の協働研究教育プラットフォームとして機能する組織です。教育活動の協働が先行している文系4部局の連携活動において、独創的領域の研究者の採用によって共同研究活動の強化をはかり、教育と研究の両輪をしっかりと機能させる態勢を整えることを企図しています。協働研究教育プラットフォームの設置により、学部ならびに学部の協働教育活動と、異分野融合による新たな研究分野や研究課題の創発をめざす協働研究活動との両輪を統括し管理運営していく態勢が確立できます。

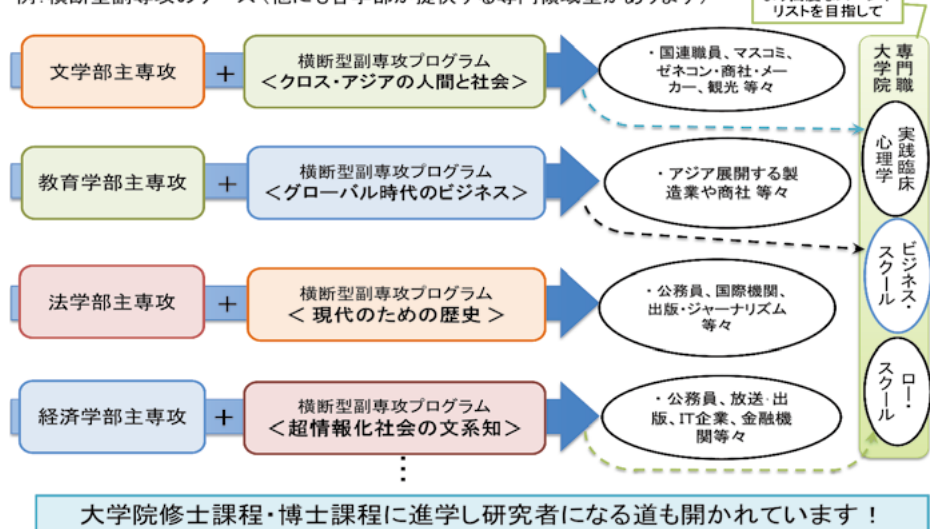
また、今後は、イーストゾーン部局はもとより、理科系部局の参加についても期待されます。

学際的な取り組みについては、既に20年以上の実績を持つ比較社会文化研究院において、考古学、人類学、歴史学、政治社会学、生態学、環境科学などを横断し研究に取り組んでいます。比較社会文化研究院を母体とする九州大学アジア埋蔵文化財研究センターは比較社会文化研究院の人文科学系と自然科学系が結集し、東アジアを中心とした地域史・人類史・自然史の研究拠点として世界最先端の分析システムを備え、学際融合研究

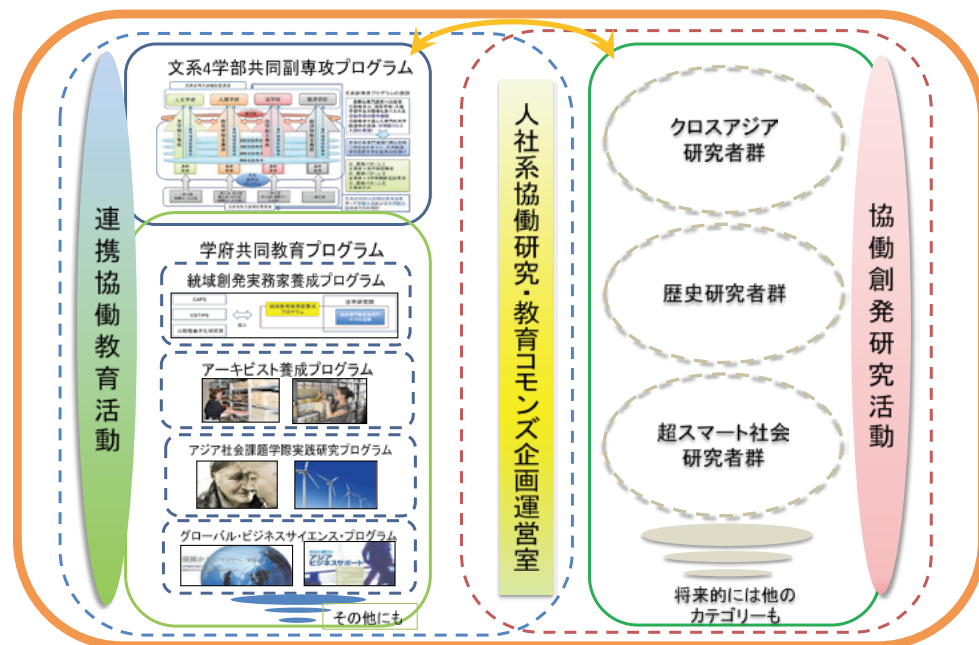


将来のキャリアパスに沿って多様なプログラムの中から選択が可能

例：横断型副専攻のケース（他にも各学部が提供する専門領域型があります）



主専攻・副専攻の組み合わせとキャリアパスとの関係



人社会系協働研究・教育コモンズの概要

論、国際協力・国際開発論、映画学、ジェンダー研究等々、きわめて多岐にわたっています。研究組織として優れた研究成果を上げていますが、基幹教育における言語文化教育を担当し異なる歴史的背景や価値観をもつ人々と協調・共生し、日本および国際社会の発展に寄与することのできる、深い国際的教養および高い言語コミュニケーション能力を有する「真のグローバル人材」の育成に多大な貢献を行っています。

このように、様々な特色をもつ部局がこのイーストゾーンに集結することになりました。各部局が今回の移転、キャンパス完成を契機に、学内他部局および国内外の関連研究機関との連携を一層確固たるものにし、世界に開かれた研究・教育拠点として飛躍を遂げるとともに、新たな知の創出に貢献することを目指しています。



箱崎文系キャンパスのシンボルツリーの1つであり、市民の方々にも愛された楷木（写真左）は、第4代松浦鎮次郎総長（写真右）の胸像とともに1号館前の森のテラスに移植されました。

九州大学中央図書館グランドオープン！



中央図書館外観



中央図書館吹き抜け

2018年10月、九州大学（以下、本学）の伊都キャンパスに新しい中央図書館がグランドオープンしました。その面積は約2万㎡にも及び、広大な空間には最大350万冊もの資料を収蔵できるなど、国内最大規模の大学図書館となっています。

イーストゾーンの台地に埋め込まれるように建っている中央図書館は、台地の上面に建つ人文社会科学系の研究棟と一体化してデザインされています。イーストゾーンの入口から望む円形の図書館は、同じく円形の椎木講堂と並び、キャンパスの新しいシンボルとなっています。

館内には、壁面書架に囲まれた4層吹き抜けの大空間が広がっています。壁面書架には重厚なコレクションが並んでおり、アカデミックな吹き抜け空間は見るものを圧倒します。また、吹き抜けまわりには様々な形状の閲覧席が設置されており、利用者はそれぞれの学習スタイルに応じて適切な席を選ぶことができるなど、研究に取り組みやすい環境が整備されています。

吹き抜けから壁面書架の通路を抜けると、多くの書架が立ち並び収蔵のための空間が広がっています。ここには、今まで分散して保管されてきた人文社会科学系の資料が集約されて並んでおり、移転以前にくらべると資料へのアクセスは格段に向上しています。これらの資料は、利用者が自由に閲覧することのできる開架書架に並んでおり、本学がこれまで蓄積してきた多くの貴重な資料に直接ふれることのできる中央図書館は、社会に開かれた知の拠点として機能しています。

学外の方のご利用について

学術にかかわる学習または研究・調査を目的とする方（本学卒業生、民間機関等に所属する方を含む）はどなたでもご利用いただけます。ただし、単に座席を使用するための利用や、原則として18歳未満の児童・生徒及び大学受験生等の利用はできません。また、本学試験期間中(7月～8月初旬、1月下旬～2月)は、本学学生の利用を優先し、学外の方の利用を制限する場合がございます。

・一時的に利用される場合（閲覧のみ）

直接カウンターにお越し下さい。カウンターで必要書類にご記入いただきます。身分証明書は不要です。

・継続的な利用または館外貸出を希望される場合

利用登録をして図書館利用者票を作成することができます。詳しくは図書館ウェブサイトをご覧ください。

■図書館ウェブサイト：<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp>

■中央図書館の開館時間：平日9:00-21:00 土日祝10:00-18:00

■問合せ先：九州大学附属図書館 利用者サービス課 資料サービス係

E-mail: tousiryoun@jimu.kyushu-u.ac.jp / TEL : 092-802-2480

活動報告

■「nano tech 2019」出展

平成31年1月30日（水）から2月1日（金）の3日間、東京ビッグサイトにおいて開催された「nano tech 2019」に出展しました。

当機構のブースでは、研究機関の立地状況や学研都市情報に関するパネル展示、DVD映写等に加え、九州大学の研究成果を活かした製品等の展示・説明を実施しました。また、共同出展者の九州大学有機光エレクトロニクス研究センターや九州先端科学技術研究所、九州大学学術研究・産学官連携本部、有機光エレクトロニクス実用化開発センター、株式会社Kyuluxによる研究成果等の紹介を行い、多くの皆さまにご来場いただきました。

会期初日の1月30日（水）には、会場内において、共同出展者の有機光エレクトロニクス実用化開発センター及び株式会社Kyuluxが、有機ELに関する研究シーズ等を紹介するセミナーを開催しました。



写真：展示会ブースの様子

■「FC EXPO 2019（[国際]水素・燃料電池展）」出展

平成31年2月27日（水）から3月1日（金）の3日間、東京ビッグサイトで開催された「FC EXPO 2019」に『福岡水素エネルギー戦略会議』と共同で出展しました。本展示会は、世界最大の水素・燃料電池の研究開発、製造に必要なあらゆる技術、部品・材料、装置、および燃料電池システムが一堂に出展する国際展示会で、3日間で合計約6万6千人の来場者がありました。

展示会では、九大学研都市における研究施設の集積状況のパネル展示、動画及びパンフレットの配布等により、九大学研都市の魅力をPRし、産学官の連携を促進しました。

また、九州大学エネルギー研究機構や九州大学持続的共進化地域創成拠点、糸島市でのエネルギーに関する取り組みなども紹介しました。



写真：展示会ブースの様子

■「九州大学」産・学・官交流促進シーズ発表会in東京2019 開催

平成31年3月14日（木）、東京都内（日本橋ライフサイエンスビルディング）において『九州大学』産・学・官交流促進シーズ発表会in東京2019を、九州大学学術研究・産学官連携本部と共同で開催しました。

本発表会は、九州大学の研究・技術シーズを紹介することにより、参加いただいた企業と九州大学との交流の促進を図るとともに、九州大学学術研究都市への企業の誘致を目的とし計画された発表会で、本発表会においてはライフサイエンス関連分野における多様な最先端研究を紹介しました。

当日は、117名の参加があり、新たな医療、創薬、食品、ヘルスケアなどのライフサイエンス関連分野を中心に、先生方から最新の研究シーズの講演をいただき、その後の交流会では、講演者と参加者との間で熱心な情報交換が行われました。



写真：セミナー風景



写真：交流会風景

✉メルマガ会員募集中

九大学研都市メールマガジンは、九大学研都市エリアのイベントや自治体、大学、産学連携、研究機関の活動情報など、九大学研都市に関する最新情報をお届けするメールマガジンです。

申込方法

<http://www.opack.jp/>
からメールマガジン募集ページにて
お申込みください。

